

しあわせ

HAPPY NETWORK

No.23

平成28年9月発行

発行

守山市民生委員児童委員協議会

編集：広報研修委員会

事務局：守山市社会福祉協議会

住所：守山市下之郷三丁目2番5号

「こんにちは 赤ちゃん訪問」が充実します。

この事業は守山市からの委託事業として、平成19年から市内の生後3ヶ月と1年の赤ちゃん宅を民生委員児童委員が全戸訪問し、住民を代表して赤ちゃんの誕生を祝い、地域住民とのつながりを作ってきました。この事業を民生委員児童委員を中心になり全市的に展開し、効果を上げていることは、滋賀県内の多くの市町の関心を集めています。

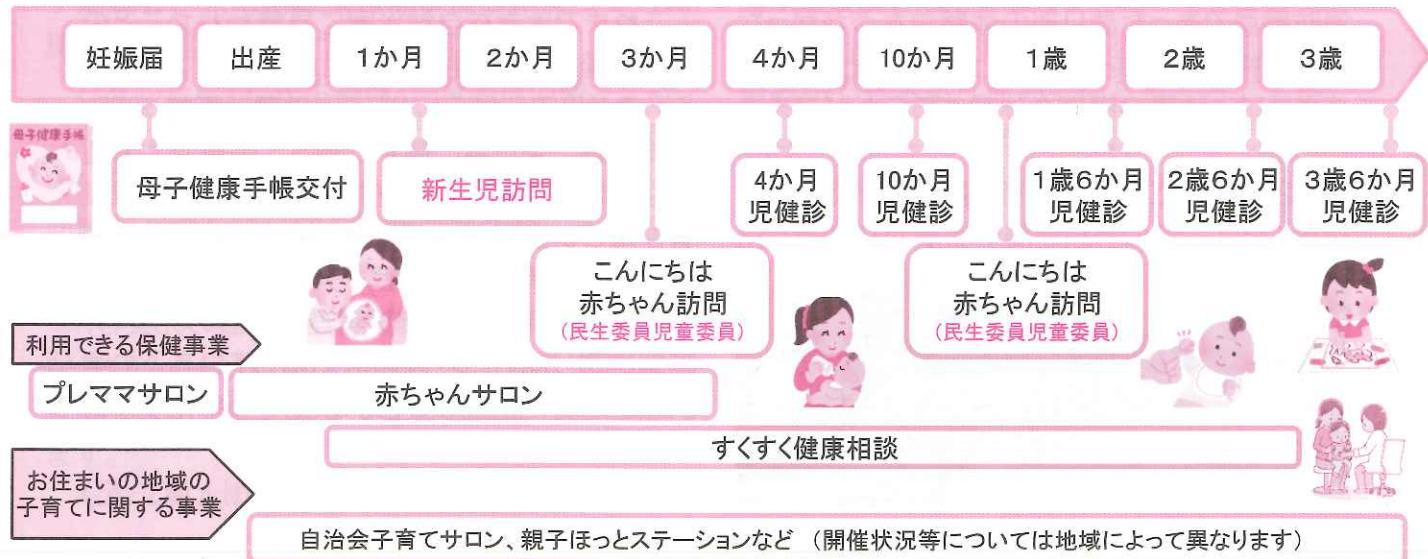
昨年からは宮本市長自らが訪問員となってこの事業の大切さを市民にアピールしています。

今年は市の新生児支援体制が今まで以上にきめ細かくなり、生後1~3ヶ月の新生児訪問が全戸に実施されることになりました。その際に赤ちゃん訪問事業を紹介し、連携することでより強力で、効果的な支援体制ができました。また今までの赤ちゃん訪問のマニュアルを見直し、訪問活動をしている民生委員児童委員の声を反映した新しいマニュアルを作成しました。市の「母子の健康、育児の専門的な支援」と民生委員児童委員の「母子の生活全般の地域的支援」が両輪となって、子育て期の母子福祉が充実、向上することになります。

(畠中彬記)



赤ちゃん訪問に民生委員児童委員が一役買っています！



平成28年度総会・全員研修会



5月25日(水)、市民ホール小ホールにて市民児協総会が開催され、平成27年度活動報告および決算、28年度活動計画案および予算案を審議、いずれも原案通り可決承認された。

昨年度施行の福祉行政に係る大きな制度改正を受け、本年はまた一斉改選の年でもあり、今期3年間の仕上げと、次への展開・引継ぎをも念頭に、私たち民生委員児童委員が地域住民の身近な存在として、支援を要する方々へ一層寄り添った活動を行うことを確認した。

続いての全員研修は、「心と身体の健康」「笑顔の花を咲かせましょう」のテーマで、夢こらぼ主宰の松尾やよい様より講演を頂いた。

配布資料「あ・うんで伝わること・伝わらないこと～『目からウロコのコミュニケーション術』」を基に、支援を必要とする人との関わりの中で、心にしかと留め置くべきこと。人はみな違う、時/場所/場合で違う。その人の思いや困っておられるところをどう察知しどう寄り添うかなど、思い込みやこだわりを捨て、「人に柔らかく生きる」要点を色々な視点から、傾聴のこころも踏まえての講話で、楽しい気づきの1時間半はとても短く感じられた。

(奥野貞夫 記)



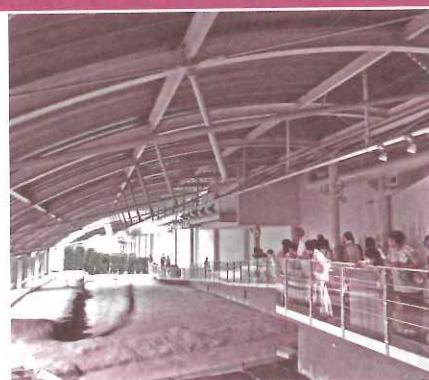
平成28年度県外研修 震災メモリアルパークなどを視察

6月23日(木)、総勢131名は3台のバスに分乗し、一路「神戸港震災メモリアルパーク」を目指しました。震災当時の被災状況で保存されたメリケン波止場、神戸港の被災状況と復旧過程などを記録した模型や映像、写真パネルなどから、21年前の阪神・淡路大震災の恐ろしさ、自然の脅威が肌で感じられました。

「人と防災未来センター」では、震災発生時、消防職員であった語り部の体験談をうかがったのち、特撮とCGを駆使した大型映像と音響で、すさまじい地震の瞬間を体感することができました。

翌24日(金)に訪れた「北淡震災記念公園」(淡路島)では、かの野島断層や断層が横切った爪

痕が今も生々しく残る民家等を見学、地震体験装置により、震度7の激震も疑似体験しました。



これまで大きな自然災害に見舞われたことのない湖国で日々を営めた幸せに感謝せずにはいられませんでした。しかし、大地震は阪神・淡路、新潟中越、東日本、熊本と続き、関東や北海道では大きな揺れが観測され、今なお多くの被災者が厳しい避難所生活を強いられています。地域防災組織の強化、市民一人ひとりの防災意識の高揚、避難行動要支援者登録制度の充実等、喫緊に取り組むべき課題は山積しているとの強い思いを胸に抱きながら、家路を急いだ実りある研修となりました。

(渕上清二 記)



部会活動～児童家庭福祉部会～

児童家庭福祉部会では、学校・園や児童福祉施設などの見学研修をしたり、里親大会等に参加したりと子どもに関わる福祉について研修を深めています。また、児童虐待、発達障害、児童の貧困、待機児童等子どもを取り巻く諸問題をテーマにグループで話し合ったり講話を聴講したりもします。

先日は、昨年園舎が新築された浮気保育園を見学に行きました。建物の外見は、ガラス張りの部分が多く開放的で、内部はクラスの部屋ごとの壁がなく、広々とした感じの素敵なお部屋で、その中には、子どもたちが生活しやすいように牛乳パックなどを使つたいろんな工夫がなされていました。

0歳児から5歳児までの様子を拝見し、それぞれの発達段階に合わせた活動がとても可愛かったです。2歳児がおトイレに行く際、各自

が自分の紙おむつを持って小さな便器に向かう姿など保育園ならではのほほえましい姿だなと思うと同時に普段からのご指導の賜物だと強く感じました。

私たちも見学だけでなく、こどもたちと交流できればと思い、手作り紙芝居をさせて頂き、有意義な研修となりました。

(大崎滋子 記)



地域のつながりづくりをめざして ～民生委員・児童委員の皆さまへの期待～

守山市自治連合会 会長 伊藤 五作



経済的困窮や社会的孤立、また虐待、いじめ、非行など地域住民が抱える課題は複雑かつ多様化しています。一方、守山市は高齢化がますます進展し、人口増による都市化も相まって人間関係の希薄化が進んでおります。

こうしたなか、民生委員・児童委員の皆さまは、これまでからもひとり暮らし高齢者や要介護者のいる世帯、また赤ちゃんのいる世帯などへの訪問をとおして見守り活動の推進や、高齢者および子育てサロン活動をとおした地域住民の居場所づくりの推進など積極的な地域住民のつながりづくりに努めていただいていることは、大変心強く、また感謝申し上げるところでございます。

今年4月に発生しました熊本地震など、近年

は自然災害が多発しており、災害発生時など非常時における個々の世帯での備えはもとより、ご近所同士のつながりを基軸とした助け合い活動が重要視されています。

各自治会では、種々検討を重ね、そうした取組みができるよう進めているところですが、こうした部門につきましても民生委員・児童委員をはじめ地域が一体となっての対策が不可欠であります。

平成29年には、民生委員制度創設100周年という大きな節目を迎えるとお聞きしております。今後も引き続き、守山市の福祉のまちづくりにご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学区だより

速野学区

平成27年度から学区民児協と10自治会で実践
「生きがい・健康・交流サロン」の
目指す処

- 生きがい** 得意な事や趣味を自分と人の為に積極的に生(活)かせるメニューがある処。
- 健 康** 滋賀県女性の健康寿命は全国39位。健康寿命の延伸は、寝たきり予防等支援を受けて自立した生活を送れ、介護保険のサービス量や医療費の削減にも貢献。個人に合った百歳体操や脳の活性化のトレーニング等が自主的に



出来る処。結果「百歳体操定例実施」の自治会は3自治会から7自治会へ。脳トレ用のビニール板や体操用の重りベルト等を民児協が自治会へ貸し出し中。

- 交 流** 一人一人が楽しめる処、人と話せる処、生活に役立つ情報(保険、食事、健康)を知る処、気軽に相談出来る処、そして年代を超えて集える処。結果、既存のサロンの他「誰でも広場」や「カフェサロン」等3自治会から7自治会が実施へ。

今日も包括支援センターの支援、健康推進員、福祉協力員、自治会の福祉部員等多くの方々の働きで生きがい健康交流サロンは継続実践中です。

(山本なお栄記)

活動日誌

中洲学区

『花に 心たくして』

中洲学区民生委員・児童委員協議会では、平成16年度から「65歳以上のひとり暮らしの方」「どちらかが80歳以上のご夫婦でお暮しの方」を対象として、誕生日にお花にメッセージカードを



添えて、友愛訪問活動を行い現在に至っています。

いくつになってもお誕生日は嬉しいもの。今では毎年、心待ちにして下さっています。

(上畠義宏記)



守山市社会福祉協議会紹介Vol.3

学区担当者

守山市社会
福祉協議会

TEL.077-583-2923(代)

伊藤五作氏も地震、自然災害について記述されている。災害が起きた場合、行政が直ちに救助に来てくれるとは考えにくい。「向こう三軒両隣」と言われるが、まずは近所の方々の安全確認と救助が必要であろう。

(鍵和田良学記)

編集後記

私は、阪神淡路大震災関連施設への研修に行つた。

渕上氏の記事は災害に対する課題も提起されている。また、自治連合会長の伊藤五作氏も地震、自然災害について記述している。

災害が起きた場合、行政が直ちに救助に来てくれるとは考えにくい。

「向こう三軒両隣」と言われるが、まずは近所の方々の安全確認と救助が必要であろう。